

- 県北地域で加工用たまねぎ栽培に取り組み、面積が拡大したが、単収が低い状況。
- 関係機関と単収向上に向けた対策を協議し、生産者支援の統一化。また、集団指導や個別指導による栽培支援。
- 平成30年産の平均単収2.7トン/10aから令和元年産は平均単収4.8トン/10aまで増加

具体的な成果

1 加工たまねぎ平均単収向上

・平成28年産(べと病大発生年)の平均単収1.3トン/10aから年々、単収は増加傾向にある。令和元年産の平均単収は4.8トン/10a

年産	H28	H29	H30	R1
単収 (t/10a)	1.3	2.1	2.7	4.8

・排水対策やべと病防除が基本管理技術として定着し、単収向上。



普及指導員の活動

・生育状況、出荷状況を確認し、対策を徹底するために、たまねぎ担当者会議を開催。

・令和2年産に向けて、べと病対策を中心としたたまねぎ防除体系について検討、決定。

・各生産者に対して、適期での栽培管理を徹底するためのメール配信実施。

・べと病発生消長を確認するために、1次伝染株調査を概ね月2回実施。

・各地区ごとに現地検討会、栽培講習会を実施。

・重点農家に対して次作の作付にむけた栽培者に今後の栽培意向調査を実施。

2 令和2年産たまねぎ防除体系配布

令和2年産

「たまねぎ防除体系を検討し、生産者に配布しべと病発生を抑制。」

年産	栽培者	防除ローテーション	防除剤の種類	防除回数	防除時期	防除方法
令和2年産	111	伊藤 隆夫	イソプロピルピラゾリン系	2回	播種後10日、播種後20日	散布
	112	伊藤 隆夫	イソプロピルピラゾリン系	2回	播種後10日、播種後20日	散布
令和2年産	113	伊藤 隆夫	イソプロピルピラゾリン系	2回	播種後10日、播種後20日	散布
	114	伊藤 隆夫	イソプロピルピラゾリン系	2回	播種後10日、播種後20日	散布

1.べと病対策のポイント

べと病の発生サイクル

2.細菌性の腐敗病害

3.薬剤散布時の注意

普及指導員だからできたこと

・市町・JA・生産者と日頃から連携していることで、たまねぎ担当者会議の企画、開催を実施し、単収向上への取り組みを支援することができた。

・たまねぎ防除体系については、研究機関、農業技術革新支援員との連携し、原案を作成し、配布し、べと病発生を抑制する取り組みを支援することができた。